



参加者へのご案内座長・発表者へのご案内Late-Breaking Abstracts参加登録
宿泊予約高校生発表協賛案内託児室・親子休憩室当日運営スタッフ募集
ポスター・チラシ設置申込公募シンポジウムアクセスEnglish
ホームご挨拶開催概要プログラム学会企画要旨閲覧システム

第95回 The 95th Annual Meeting of the Japanese Biochemical Society 日本生化学会大会

波及する生化学～生命科学の革新へ～

会期 2022年 11月 9日水～11日金

会場 名古屋国際会議場

会頭 門松 健治 (名古屋大学大学院医学系研究科)

参加賞・領収書のダウンロードはこちら
事前・後期参加登録者が対象です。

若手優秀賞受賞者

研究成果、またその進化的な保存性や多様な変化について細菌、古細菌、真核生物の3つのドメインを通して議論し、染色体機能維持について理解を深めたい。

3S10m

日時：11月11日（金） 9:00-11:00 会場：第10会場（223）

ダウン症から学ぶ多面的な病態生化学

オーガナイザー：

南 敬（熊本大学生命資源研究支援センター/大学院生命科学研究部・分子血管制御学）

有村 奈利子（国立精神・神経医療研究センター）

一講演者

横手 幸太郎（千葉大学 副学長 医学部附属病院長 医学研究院 内分泌代謝・血液・老年内科学）

中川 拓郎（大阪大学大学院理学研究科生物科学専攻）

水津 太（香川大学医学部 病理病態・生体防御医学講座）

有村 奈利子（国立精神・神経医療研究センター）

南 敬（熊本大学生命資源研究支援センター/大学院生命科学研究部・分子血管制御分野）

一概要

アンメットメディカルニーズの最たるダウン症はヒト21番染色体がトリソミーになることで生じる症候群であり、人類遺伝学上最も高頻度で生じることから身近な存在となっている。このダウン症病態は精神発達遅滞・早期アルツハイマー病発症などの神経疾患に留まらず、心奇形・急性白血病、更にはリンパ浮腫・筋力低下・骨粗鬆症のリスク増大など全身性で多岐にわたる。一方で成人期での固形がん罹患率の大幅な低下や動脈硬化・高血圧が進展しないなど非線形的な防護的な側面があることも判明してきた。このような複合的表現型は、染色体・クロマチン動態制御、一次繊毛異常などの分子細胞生物学、神経・血管の微小環境、加齢時間軸での経時的動態変化などの多面的な要素で捉え、システムの病態相関を考える必要性・重要性がクローズアップされている。そこで本シンポジウムでは各方面で先駆的な研究を推進している講演者を交え、ダウン症、更には高齢化社会での各ライフステージにおける生活習慣病との相関について考えていきたい。

3S11m

日時：11月11日（金） 9:00-11:00 会場：第11会場（211）

